

「美浜の地域を見つめて」

(2班)

1. 活動先

- ・美浜（主に日本福祉大学周辺）
- ・弥富
- ・阿久比周辺（駅周辺、国道、田圃道を中心に活動）
- ・太田川（舗装済みの道路、裏道など駅を中心に活動）

2. 当初の活動目的・目標

目的

- ・自分の通う大学周辺に何らかの働きかけができないか。
- ・自然豊かなこの地域をより詳しく知りたいこと、またこの自然をできる限り守りたいと思った。
- ・環境開発を行っているゼミの話聞いて、自分も地域開発とまではいかなくとも何らかのよい働きかけができるのではないか。

目標

- ・美浜の一長一短を発見し、地域の人々・学生に働きかける。
- ・改善点は役所などに働きかけることでより良い方向に発展させる。
- ・上記と同時並行で自分にできる限り改善に努める。

3. 活動内容

- ・美浜の地域を中心に活動、また別に他の地域で活動を進めそれぞれの地域の一長一短を考察、美浜町と比較し美浜の一長一短を考察。
- ・結果をもとに美浜の改善点を発見する。そして発見した改善点をもとに役所に働きかける。

4. 活動における問題・課題

- ・「地域」という幅が広く、抽象的なテーマゆえに絞り込みに時間がかかる。
- ・働きかける対象の絞り込みを怠った。

5. 活動前の仮説、結論・活動を通して学んだこと

仮説

- ・美浜は自然が多い反面道路整備に欠ける。
- ・弥富、阿久比は美浜と比較すると自然に欠けるが、その反面道路整備などが進む。
- ・太田川は都心（今回は名古屋）に近い地域なため道路整備が最も進んでいるものの、活動先の中で最も自然に欠け、また環境への配慮も薄い。

結論

- ・美浜は最も自然が多く、他の地域に生息していない生物（ウナギの稚魚）が存在している所が多い、しかし国道付近となると豊かな自然はほぼ無くなり汚染が進んでいた。道路整備の面では逆に国道付

近は整備が進んでいるものの、自然が多い地域では車幅の狭さ、舗装の欠ける部分が見られる等整備に欠けていた。他にもポイ捨て等自然への配慮に欠ける部分が目立った。

- ・弥富は仮説通りの結果が主だったが、目をみはった部分はポイ捨てが他の地域ほど見られなかった所だった。

- ・阿久比は国道が通っている分道路整備が進んでいたものの、自然への配慮を考慮して設計したのかバランス良く自然と成り立っていた。しかし歩道の整備が遅れている印象が大きかった。

- ・太田川は整備の進んでいる地域は交通が快適であるように感じた。しかし、汚染、ポイ捨ては最も悪く、裏道など整備に欠けている部分は車幅、舗装等最も劣悪である印象が大きかった。

- ・美浜の地域改善を役所に働きかけたところ問題を取り上げた所はほぼ全て対処を進めていた。

- ・学生のマナーの悪さが目立つという苦情をよく耳にすると聞いていた。

6. 活動先への提案、今後の活動

- ・学生へのマナー向上の呼びかけ。

- ・ポイ捨ての回収。

7. 次年度活動する学生へ

地域・環境というジャンルは今や多くの学者が注目している。地域といっても今回私の行った活動以外にも「隣人関係」「社会」「地域福祉」等様々な形で発足することができる。今の社会に欠けている地域関係を深く知ることはこれからの福祉援助を行うに当たって大きな助けになると思う。大変ではあるものの確実に自分のためになるテーマだと思っている。